

FaN Week 2026 -ファンウィーク2026- 開催

アートを身近に感じる機会とアーティストの作品発表の場の創出のため、市内のさまざまな場所でアートを楽しむ **"Fukuoka Art Next" Week - FaN Week -** を今年も開催します。

初日には**オープニングセレモニーを開催**いたしますので、取材・広報のご協力をよろしくお願いします。

■ FaN Week 2026開催概要

【開催期間】 **令和 8年 9月 19日(土) ~ 10月 12日(月・祝日)** ※24日間

【会場】 福岡市美術館、福岡アジア美術館、アーティストカフェフコカ、ONE FUKUOKA BLDG.、福岡国際センター、FaNパートナー、市内ギャラリーなど

※会場毎に展示期間や時間などが異なりますのでご注意ください。

【今年のテーマ】 まちにひろがる、アートの遊び場

毎日通る道。毎日見るこのまちの風景。いつものまちに、新たな視点や刺激を。

まちいっぱいアート遊び場が広がり、見慣れたはずの場所が、好奇心をかき立てる場所に彩られる。

もっとアートのFaNに。もっとこのまちのFaNに。FaN Week2026がはじまります。

多くの市民や観光客が行き交う「ONE FUKUOKA BLDG.」のグランドロビーを舞台に「遊具」を用いた大型インスタレーション作品を展示。また、「Artist Cafe Fukuoka」のグランドスタジオでは、体育館という広いスペースを「巨大劇場」に見立て、没入感があるインスタレーション作品を展示します。

その他、市美術館やアジア美術館、アーティストカフェでは、この期間だけの特別な展覧会等を開催するとともに、市内の様々な場所でFaNパートナーやアートギャラリーが主催するアート作品の展示やアートイベントが開催されます。是非この期間に、まちいっぱいにひろがる、アートの遊び場をご体感ください。

■ オープニングセレモニー開催

【開催期間】 **令和 8年 9月 19日(土) 10時15分 ~**

【会場】 ONE FUKUOKA BLDG.グランドロビー（ワンビル1階）

【出席者(予定)】 高島市長、山出淳也氏、コレクター、アーティストなど

★是非、当日は取材をお願いいたします。

以下、展覧会情報

ONE FUKUOKA BLDG.開催

福岡現代作家ファイル2026 牛嶋均/シアター・オブ・プレイグランド 記憶・身体・検証

【会場】 ONE FUKUOKA BLDG. グランドロビー

【期間】 9月19日(土)~10月5日(月)

【内容】 福岡アジア美術館所蔵作家である、牛嶋均氏の大型インスタレーション作品を展示します。
廃棄遊具等を使った圧倒的な存在感のある大型作品の展示を是非会場でご体感ください。

《シアター・オブ・プレイグランド
記憶・身体・検証》

**Coming Soon
是非会場で!**

【過去作品(参考)】



《山のカタチ―断片的な相似性の研究》
2018年 光源:市川平



《荔枝屋頂-共栖之樹》 2025年
"Litchi Roof; The Tree of Coexistence" 2025

福岡市美術館 開催

コレクターズVーALL MY LOVINGー

【会場】福岡市美術館2階 特別展示室

【会期】9月19日(土)～10月5日(月) ※10/5(月)は特別開館します。

【内容】様々な分野で活躍されるとともに、アートにも深く関心を抱き、作品を収集しているコレクターを紹介する「コレクターズ」展の第5弾。2名のコレクターのコレクションから代表的な作品をお借りして展示します。



有限会社永山祐子建築設計
建築家 永山 祐子 氏



川久保ジョイ《白浜》
2011年 永山祐子氏蔵



株式会社イーティックスデータファーム
代表取締役社長 原田 栄二 氏

大洲大作《Flow / float
ー琵琶湖疏水 墨染橋
付近 #1》
2023年 原田栄二氏蔵



企画展×福岡現代作家ファイル2026 山内光枝展《潮ノ記》

【会場】福岡市美術館2階 近現代美術室B

【会期】9月8日(火)～12月20日(日) ※10/5(月)は特別開館し、翌10/6(火)を休館します。

【内容】本展は、《つれ潮》や《潮汐》などの映像作品のほか、山内自ら海に潜って目にした風景を各地の塩と海水で描いた《潮ドローイング》、潮の流れとともに生きてきた人々との五体を通した営みの継承を写真とドローイングで表現した作品なども展示します。また、これまでの実践と未来の展開をつなぐ新たなプロジェクトの出発点となる作品も、本展で初公開します。



《つれ潮》2018年 映像、サウンド 福岡市美術館蔵



《潮汐》2012-2021年 映像、サウンド 福岡市美術館蔵
撮影：山内光枝

Fukuoka Wall Art Project2026 受賞作品展

【会場】福岡市美術館2階 ロビー

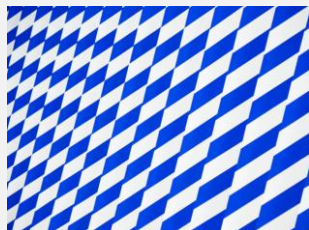
【会期】9月19日(土)～9月27日(日)

【内容】本展は、Fukuoka Wall Art Project2026の優秀賞5作品、入賞25作品の原画30点を展示します。

本作品は都心部等の仮囲いなどに掲出され、街を彩る予定です。

加えて、10月2日から始まるアートフェアアジアフクオカ2026にて原画を販売します。

《優秀賞の5作品》



作品名：「LINE26-b」
作家名：サカイ ケイタ



作品名：「Blue Collar」
作家名：田中 慎也



作品名：「ラベリング」
作家名：タニガミ ヒカル



作品名：「森(氷山三水沢)」
作家名：津田 翔一



作品名：「兆す」
作家名：遠山 琴乃

アジア美術の歩き方 南アジア特別編 対立の先へ—光の水脈をめぐる旅

【会場】福岡アジア美術館 企画ギャラリー、アジアギャラリー

【会期】9月19日(土)～翌年1月11日(月・祝日)

【内容】2026年度の福岡アジア美術館では、コレクション展のシリーズ企画として「アジア美術の歩き方」を開催しています。本シリーズでは、アジア美術に初めて触れる方にも親しみやすい形で、「東アジア」「南アジア」「東南アジア」の3つのエリアを旅するようにめぐりながら、それぞれの地域ならではの美術と文化の魅力をご紹介します。

シリーズ第2弾となる「南アジア特別編」で紹介するのは、インド・パキスタン・バングラデシュ・スリランカ・ネパール・ブータン・モルディブの7か国。今回は当館所蔵コレクションに加え、本展のために制作された新作や近作も展示し、通常のコレクション展よりも規模を拡大した“特別編”としてお届けします。

南アジアは、北部のヒマラヤ山脈を源とする大河が人々の暮らしを支え、南部はインド洋へと開かれた地域です。豊かな水の流れとともに、多様な民族、宗教、言語、文化が交わりながら、独自の文化圏を育んできました。18世紀半ば以降、多くの地域がイギリスによる長い植民地支配を経験し、その後の歴史のなかで宗教対立や社会格差などさまざまな分断が生じました。そうした状況は、現在の政治や社会、人々の生活にも大きな影響を残しています。しかしその一方で、人々はそれぞれの文化やアイデンティティを守りながら、自らの存在や価値観を粘り強く表現し続けてきました。そこには困難な現実に向き合いながらも、新たな創造を生み出してきた力と、時代を越えて受け継がれてきた豊かな文化のエネルギーを見ることができます。

本展では、国や宗教、歴史的な対立を抱えながらも、その深層を流れる地下水脈のような目に見えないつながりを見つめます。南アジアに脈々と受け継がれてきた創造の力に触れる——「光の水脈をめぐる旅」へ、皆さまをご案内します。



★新作 イフティハール・ダーディー&エリザベス・ダーディー〔パキスタン〕《水の中で》(部分) 2026年、作家蔵



ダリ・アル・マムーン〔バングラデシュ〕《抹消》
2012年、作家蔵



アーイシャ・ハーリド〔パキスタン〕《愛の庭は限りなく緑に満ちている》2019年、作家蔵

アーティストカフェクオカ 開催

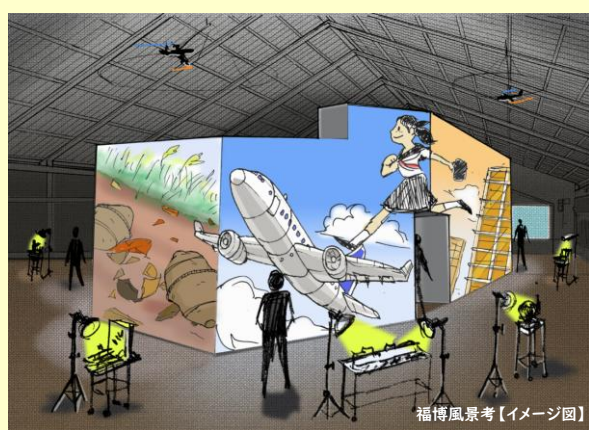
ACFグランドスタジオ特別企画展 伊藤隆介/福博風景考:時をかける少女は飛翔の夢をみるか?

【会場】アーティストカフェクオカ グランドスタジオ

【会期】9月19日(土)~10月12日(月・祝) ※10/5(月)は特別開館し、翌10/6(火)を休館します。

【内容】ギミックを内蔵した精巧な模型と、その動きをリアルタイムに映像として投影する独自の表現で注目を集める美術家・映像作家、伊藤隆介。グランドスタジオ全体をひとつの「巨大劇場」に見立て、現実と映像、物質とイメージが絶えず交差する「リアリスティック・ヴァーチャリティ(現実的仮想)」の世界を創出。

展示空間では、福岡が紡いできた「交流の軌跡」や、時代ごとに蓄積された「地層」を、模型と映像によるダイナミックなインスタレーションで空間いっぱいに視覚化。弥生時代から現代に至る福岡の力強いエネルギーを「走る女性」や「飛ぶ飛行機」などを通して象徴的に描き出し、躍動し続ける街の歴史とその記憶を呼び覚まします。現実と仮想が重なり合う空間で、福岡という土地に積み重ねられてきた歴史、文化、そして人々の交流が生み出すエネルギーを、ぜひ全身で体感してください。



【過去作品(参考)】



第26回 福岡アジア美術館 アーティスト・イン・レジデンスの成果展 「視差—いつもそこに在るもの」

【会場】アーティストカフェクオカ(スタジオ、ギャラリー)

【会期】9月19日(土)~10月5日(月) ※10/5(月)は特別開館します。

【内容】1999年の開館以来、延べ100人を超すアーティストを福岡に招へいしてきた福岡アジア美術館のレジデンス事業では、アーティストたちはさまざまな人と交流しながら、福岡ならではの作品を滞在制作してきました。本展では3人のアーティストたちが7月から滞在制作してきた新作をそれぞれ発表します。

【アーティスト】



ハン・ハン
(ベトナム)



アムシャド・スヌワール
(ネパール)



イアン・ティー
(シンガポール)

福岡国際センター 開催

ART FAIR ASIA FUKUOKA 2026

【会場】福岡国際センター

【会期】10月2日(金)～10月4日(日) ※10月1日(木)はVIP Previewとなります。

【内容】AFAFは初来場者や若い世代、地元市民などにアートの裾野を広げている国内最大級のアートフェアです。今年で11回目の開催を迎え、日本の現代アートシーンを牽引する著名な国内ギャラリーが多数出展するほか、台湾など合計17の海外ギャラリーが集結します。また地元企業や大学等との連携企画をはじめ、ライブパフォーマンス、大型インスタレーションなどアートを購入するだけでなく、様々なアートの楽しみ方を体験できるアートフェアです。



[ART FAIR ASIA FUKUOKA 2024の様子]



「Masters」ブース



「First Collection」ブース

市内各所 開催

Fan Week 2026 パートナープログラム

【会場】市内の商業施設やギャラリーなど

【会期】会場毎に異なります。

【内容】FaNパートナー（民間企業等）によるFaN Week期間中ならではのアートイベントが市内各所で開催されます。



■天神エリアでの主なFaNパートナーの取り組み

SICF Fukuoka (スパイラル・インディペンデント・クリエイターズ・フェスティバル・フクオカ)

【開催期間】9月19日(土)から22日(火・祝)

FaNパートナーである「スパイラル」と「西日本鉄道(株)」とが協働し、若手作家の発掘・育成・支援を目的とした公募展形式のアートフェスティバルをONE FUKUOKA BLDG.6階で開催。

★9/19オープニングセレモニー終了後、一般公開前にメディアツアーが開催されます。



■博多エリアでの主なFaNパートナーの取り組み

HAKATA ART MONTH2026 (ハカタ・アート・マンス2026)

【開催期間】9月2日(水)から10月17日(土)

博多駅の周辺各所で、展示やトークイベント、灯明など、さまざまなアートコンテンツが集まる「HAKATA ART MONTH」を開催します。アートに馴染みのない方も気軽に参加できます。この機会に、博多のまちでアートの魅力に触れてみませんか？

※他にもたくさんのFaNパートナープログラムが*開催されますので「FaN Week2026特設サイト」をご覧ください。

その他

- ・FaNWeekメイン会場の他、パブリックアートを巡る「FaNWeek2026デジタルスタンプラリー」を開催
- ・マップを掲載したA2版の「FaNWeek2026リーフレット」を制作。市内周遊が楽しくなる！
- ・その他、情報が盛りだくさんですので、特設サイトやFaNインスタグラムのチェックをお願いします。



FaN Week 2026
特設サイト



FaNインスタ

【問い合わせ先】

経済観光文化局美術館

アートのまちづくり推進担当 三浦、松本

TEL) 714-6109

Mail) art-community.EPB@city.fukuoka.lg.jp